

表－1 今後の河川水質管理の指標項目（案）

河川水質管理の視点	河川水質の確保すべき機能		確保すべき機能を表す項目	指標項目の分類				今後の河川水質管理指標項目(案)				
				住民との協働に優れた項目	感覚指標に係る水質項目	機能に関して指標性のある水質項目	雨天時調査の必要な項目	住民との協働による測定項目	河川等管理者による測定項目			
人と河川の豊かな触れ合いの確保	快適性 (利用にあたって快適であること)	水域全体のきれいさ	ゴミの量	ゴミの量	－	－	－	<b>ゴミの量</b>	SS、濁度、(BOD)			
		水の透明感 (水のきれいさ)	透視度、SS、濁度、 (BOD(簡易COD))	透視度、水の色、 泡、(簡易COD)	－	透視度 SS、濁度 (BOD)	－			<b>透視度、</b> (簡易COD)		
		川に入った 快適性	川底の感触	川底の感触、(SS)、(濁度)、 (BOD(簡易COD))、 (T-N)、(T-P)、(クロロフィル)	川底の感触、 (簡易COD)	(BOD)、(T-N)、 (T-P)、 (クロロフィル)	(SS)、(濁度)				－	<b>川底の感触、</b> (簡易COD)
			水に触れた 感覚	水温、粘性	水温	－	水温、粘性			－		
	臭い	水の臭い、臭気、(臭気度)、(DO)、 (BOD(簡易COD))	水の臭い、臭気 (簡易DO)、(簡易COD)	(DO)、(BOD)	(臭気度)	－	<b>水の臭い、</b> (簡易DO)、 (簡易COD)	(DO)、(BOD)				
安全性 (利用にあたって安全であること)	衛生的安全性 (触れる、誤飲の安全性)	糞便性大腸菌群数 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類 環境ホルモン	－	－	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	－	<b>糞便性大腸菌群数</b>					
豊かな生態系の確保	生息、生育、 繁殖	呼吸	DO、SS、 (BOD(簡易COD))	簡易DO、(簡易COD)	－	DO、(BOD)	DO、SS	簡易DO、(簡易COD)	<b>DO、</b> (BOD)、SS			
		毒性	NH4-N、 Zn、ダイオキシン類、 環境ホルモン	簡易NH4-N	－	NH4-N、Zn、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	NH4-N	簡易NH4-N	<b>NH4-N</b>			
		生物の生息	水生生物の生息、(水温)、 (pH)、(BOD(簡易COD)) (T-N)、(T-P)	水生生物の生息、 (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	－	(BOD)、 (T-N)、(T-P)	－	<b>水生生物の生息、</b> (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	スコア法 (pH)、(BOD)、 (T-N)、(T-P)			
利用しやすい水質の確保	安全性	毒性 (消毒副生成物含む)	(TOC)、(BOD)、(COD)、(SS)、 トリハロメタン生成能(NH4-N)、 健康項目	－	－	(TOC)、(BOD)、 (COD)、(SS)、 トリハロメタン生成能、 (NH4-N)、 健康項目	(TOC)、 (トリハロメタン生成能)、 (NH4-N)、	－	<b>トリハロメタン生成能</b> (NH4-N)、 (TOC)			
		微生物	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	－	－	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	原虫類、ウイルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	－	糞便性大腸菌群数			
	快適性	臭い	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	－	－	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	2-MIB、ジオスミン	－	<b>2-MIB、ジオスミン</b>			
		味覚	異臭味、(TOC)、 (COD)	－	－	(TOC)、(COD)	(TOC)、(COD)	－	SS、濁度、NH4-N			
	維持管理性	浄化処理の維持管理性	SS、濁度、NH4-N	－	－	SS、濁度、NH4-N	SS、濁度、NH4-N	－				
下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保	下流域の富栄養化や閉鎖性水域（ダム、湖沼、湾）の富栄養化への影響が少ない水質レベルであること。	アオコ、淡水赤潮、 透視度、透明度、 (T-N)、(T-P)、クロロフィルa、 (TOC)、(* <sup>2</sup> ケイ酸)	アオコ、淡水赤潮、 透視度、透明度	クロロフィルa、 (* <sup>2</sup> ケイ酸)	(T-N)、(T-P)、 クロロフィルa、(TOC)	(T-N)、(T-P)、 (TOC)	－	<b>(T-N)、(T-P)</b>				
河川の基本的特徴の表現		水温、流量、流速、水位 BOD(簡易COD)、 SS、濁度、pH、 水生生物の生息 (* <sup>1</sup> フレッシュ度)	水温、簡易COD、 簡易pH (* <sup>1</sup> フレッシュ度)	－	BOD、SS、濁度、pH 流量、流速、水位 水生生物の生息	SS、濁度	水温、簡易pH、 簡易COD、 流れの状況	BOD、SS、濁度、pH、 流量、流速、水位				

\*1この項目は情報提供のみに限られる

\*2今後の調査・研究が必要である項目

※上記の視点に対して、水質以外の項目として川への近づき易さや、河道形態などが影響してくる。そのため、水質管理を行う上では、これらを考慮して検討を行う必要がある。

※現在国土交通省で設置している水質自動監視装置では、水温、pH、DO、濁度、COD、NH4-N、T-N、T-P等の測定を行っている。また、水位観測所において水位の観測を行っている。

◆表の見方

- ・( )内の指標項目は、今後のデータの蓄積を行い、水質指標として継続すべきか、あるいは他の項目で代替すべきかを判断するために、調査を行う項目
- ・**太字**は評価可能な項目
- ・**下線**は特に指標性の高い項目を表す